

日本気象学会 昭和60年春季大会

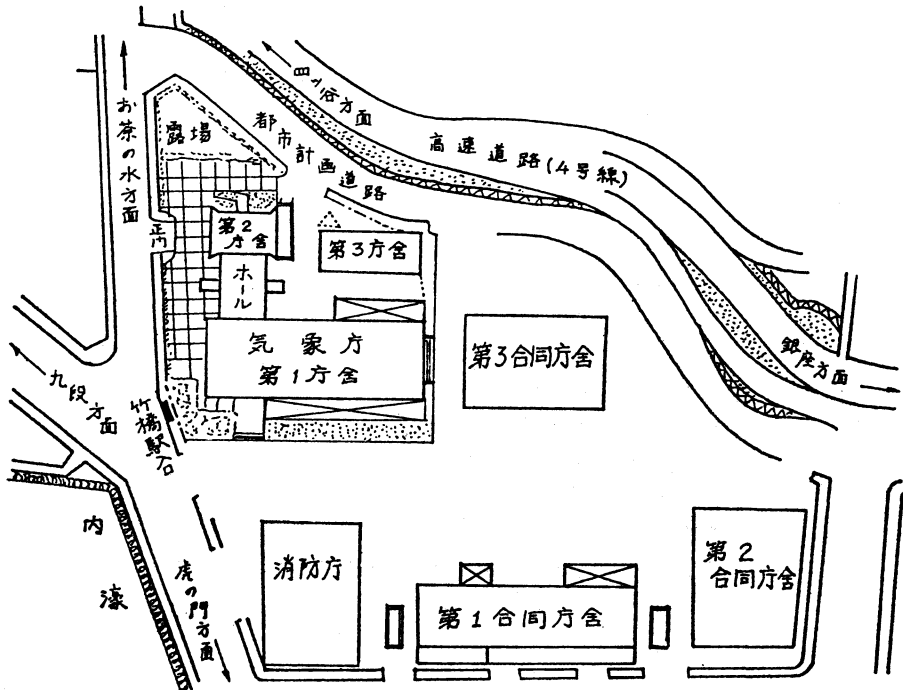
会期：昭和60年5月22日（水），23日（木），24日（金）

会場：気象庁（千代田区大手町 1-3-4）

目 次

会場案内	211
大会行事予定表	212
総会次第	212
研究発表内容一覧表	213
シンポジウム内容	213
研究発表題目	214～221

会場案内図



(道順) 地下鉄東西線竹橋駅下車がもっとも便利です。

大会行事予定

1. 会場：気象庁（TEL. (03)-212-8341 Ext. 436）
 第1会場（講堂，2階）
 第2会場（総務部第1会議室，5階）
 第3会場（東京管区気象台会議室，8階）
2. 会期：5月22日（水），23日（木），24日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月22日（水）09：00～12：30 13：30～17：30
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月23日（木）09：00～12：00
総会	（第1会場）	13：00～14：00
記念講演	（第1会場）	14：00～15：30
シンポジウム	（第1会場）	15：30～17：30
懇親会	（第3合同庁舎 地下食堂）	18：00～
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月24日（金）09：00～12：30 13：30～17：30

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 山本賞授与
7. 昭和59年度事業経過報告
8. 昭和59年度会計決算報告
9. 昭和59年度会計監査報告
10. 昭和60年度事業計画案・予算案の審議
11. 山本賞受賞者選定規定の一部改正
12. その他
13. 閉会の辞

なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞記念講演を行う。

昭和60年春季大会

() : 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5月22日 (水)	09:00~ 12:30	総観規模現象 (101~107) —中村 一— 気候 I (108~115) —中村 一—	エクマン境界層 (201~216) —安田延壽—	大気化学 (301~316) —牧野行雄—
	13:30~ 17:30	気候 II (116~134) —田中康夫—	局地循環 (217~233) —藤部文昭—	雲物理 (317~335) —武田喬男—
5月23日 (木)	09:00~ 12:00	台風・熱帯気象 (135~147) —住 明正—	接地境界層 (234~246) —山本 晋—	放射 (336~344) —高村民雄— 測器 (345~350) —穂田 巖—
	13:00~ 14:00 14:00~ 15:30 15:30~ 17:30	総会 記念講演 シンポジウム	第1会場：2階	
5月24日 (金)	09:00~ 12:30	力学・大規模現象 (148~162) —林 祥介—	数値モデル・中小規模現象 I (247~263) —猪川元興—	エアロゾル (351~361) —岡田菊夫— 大気汚染 I (362~365) —北林興二—
	13:30~ 17:30	大気大循環・中層大気 (163~179) —谷貝 勇—	中小規模現象 II (264~280) —村木彦麿—	大気汚染 II (366~370) —北林興二— 応用気象 (371~381) —蔵重 清—

注) 大会参加費 会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 一般 1,500 円

シンポジウム「気候変動」

1. 日 時 大会第2日(5月23日)
2. 会 場 第1会場(講堂:2階)
3. 座 長 今井光男(東京管区气象台)
4. 話題提供者
田中正之(東北大学): 気候と炭酸ガス
星合 誠(愛知学院大学): 気候変動の診断
時岡達志(気象研究所): 数値モデルによる気候の研究

講演発表者へのお知らせ

1. 東京大会では第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウンドに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

研究発表題目

大会第1日(5月22日)09時00分～12時30分

第1会場 総観規模現象

座長 中村 一

101. 井上豊志郎(気研・台風): 赤外2チャンネルデータと降雨域
102. 内山徳栄(気象衛星センター): GMS 画像で解析された層積雲域の相対湿度の鉛直プロファイルの統計
103. 阿部克也(高層気象台): じょう乱の発達と温度場
104. 児玉安正・浅井富雄(東大・海洋研): 日本南岸沿いの多雲量帯にみられる季節変化の特徴(1982年4月-1983年3月)
105. 豊田威信(東大・理)・大林正典(仙台管区)・中村 一(東大・理): 1979年冬季の北半球の温帯低気圧に伴う前線の解析
106. 市成 隆・櫃間道夫(気象衛星センター): 台風の近傍で明瞭になった寒冷前線性雲列
107. 加藤内蔵進(東大・海洋研): 中国大陸における梅雨前線帯の季節内変動の解析-下層風系を中心に-

気候 I

座長 中村 一

108. 松本 淳(東大・理): 梅雨前線は、いつ、どこまで北上するか?
109. 加藤内蔵進・児玉安正(東大・海洋研): 「梅雨の走り」の頃の日本南岸における前線帯の特徴
110. 工藤泰子(筑波大・地球科学): 北半球500 mb 高度場とオホーツク海高気圧の発達について
111. 山川修治(筑波大・地球科学): 北西太平洋海面水温と冬季南岸低気圧の関係について
112. 榊原保志(目黒二中): 都市気温の季節による差
113. 伊藤政志(東京都・公害研)・広尾 純(関東学院大)・林 正幸(芝浦工大)・宇田川満(東京都・公害研)・塩沢清茂(早大・理工): 角度変量の統計による風向の地域特性の解析
114. 甲斐憲次(気象庁・産業気象): 日本における地表風のスペクトル気候学
115. 山元龍三郎・岩嶋樹也・Sanga, N.K.(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養): 2次モーメ

ントの気候変動(1)

第2会場 エクマン境界層

座長 安田 延 壽

201. 福岡義隆(広島大・総合科学): 風の日変化・年変化特性と地形要素との関係
202. 白崎航一・戸矢時義・北出寿江(気研・応用): 山地斜面風の観測(II)
203. 吉門 洋(公害資源研): 関東平野の冬季の東風について
204. 近藤純正・桑形恒男(東北大・理): 夜間冷気層解消による急激な地上強風化現象-運動量の鉛直混合-
205. 石川裕彦・角田道生・林 隆・茅野政道(原研): 筑波山周辺での2台の音波レーダを用いた上層風観測
206. 栗田 進・里村雄彦・吉川友章(気研・応用): 2台のドップラレーダによる筑波山周辺のチャフの観測 II
207. 角田道生・林 隆・茅野政道・石川裕彦(原研): 筑波山を中心とした拡散実験
208. 茅野政道・石川裕彦・角田道生・林 隆(原研): 筑波山を中心とした拡散実験(II)-数値シミュレーション-
209. 北林興二・吉門洋・近藤裕昭・横山長之(公害資源研): 筑波山周辺の気流観測と風洞実験(3)
210. 伊藤芳樹(海上電機)・水越利之・伊東正道(東京電力技開研)・吉川敏夫(気象協会)・小平信彦(リモートセンシング技術センター)・内藤恵吉・花房龍男・吉川友章(気研): High Power 型 Doppler Sodar による大気境界層の観測
211. 小林博和・赤井幸夫・加藤央之・西宮 昌(電力中研): ドップラ音波レーダによる境界層内の風速成分の観測(I)-鉛直風速の標準偏差の特性について-
212. 木村富士男(気研)・P.C. Manins(CSIRO・オーストラリア): Periodic な谷地形による風の Blocking(II). 乱流境界層・放射冷却・コリオリ力の効果
213. 沢井哲滋・白木正規(気研・予報)・浅野正二(気

- 研・高物)・竹内衛夫(山形地台): 接地層のパラメタリゼーション—移流霧の鉛直次元モデル(その3)—
214. 塚本 修(岡山大・教養): 対流混合層の減衰過程について
215. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層構造の日変化の季節変化(その2)
216. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之(公害資源研): 飛行機による湿度および水蒸気輸送量の観測(その4)
- 第3会場 大気化学**
- 座長 牧 野 行 雄
301. 土器屋由紀子・青山道夫・葛城幸雄(気研・地球化学): 日本各地における化学成分の降下量について(その2)
302. 青山道夫・葛城幸雄(気研・地球化学): 地表大気中⁹⁰Sr濃度の季節変化について
303. 杉村行勇・広瀬勝己(気研・地球化学): Scavenging ratioの季節変化と緯度分布について
304. 鶴田治雄・草野 一・渡辺善徳(横浜市・公害研): 降水の汚染機構(I)—都市域での降水の化学成分の季節変化に関する解析—
305. 太田幸雄(北大・工)・更科千温(山武ハネウェル)・中村 恵(日科技研): 札幌におけるガス状及び粒子状硝酸, アンモニア, 塩素及び硫酸化物の挙動
306. 伏見克彦(気研・地球化学): 北太平洋西部海域における大気・表面海水中二酸化炭素分圧の変動
307. 田中正之・中澤高清・大島裕之・青木周司(東北大・理): 沖縄本部半島における大気中の二酸化炭素濃度の連続観測 II
308. 田中正之・中澤高清・青木周司・大島裕之(東北大・理): 日本列島上空におけるCO₂濃度の緯度—高度分布
309. 近藤幸治(気象庁・高層)・忠鉢 繁(気研・高物): 南極昭和基地におけるオゾン観測(1983年2月~1984年1月)(第24次南極観測隊によるオゾン観測の概要)
310. 広田道夫・村松久史・佐々木 徹(気研・高物): 航空機によるオゾン・水蒸気・ハロカーボン等の観測
311. 小川利紘・岩上直幹・柴崎和夫(東大・理): 成層圏NO₂高度分布の気球観測
312. 村材久史・広田道夫・牧野行雄・佐々木 徹(気研・高物): 高度40 kmまでのオゾン観測(II)
313. 佐々木 徹・村松久史(気研・高物): 成層圏微量成分2次元モデル(III)—フロンによるオゾンの減少—
314. 岩坂泰信・斉藤 定・小野 晃(名大・水圏研): 南極成層圏の水蒸気観測
315. 川平浩二(京大・理): 突然昇温期間の大気光と電子密度の増大機構について
316. 関原 彊(東理大): オーロラ活動による炭酸ガスの分解について

大会第1日(5月22日) 13時30分~17時30分

第1会場 気候 II

- 座長 田 中 康 夫
116. 森山 茂(日大・生産工): 地球型惑星のGlaciation Cycle Model(I). モデルと, Marine BiotaによるCO₂効果を含めた計算
117. 石原靖文(東海大・海洋): 冬季における北太平洋の海面水温の変動と海面気圧場の変動について
118. 吉野正敏・川村隆一(筑波大・地球科学): 東部赤道太平洋における海面水温の周期変動—その西進する位相について—
119. 川村隆一(筑波大・地球科学): 北太平洋における卓越したSSTモードと大気循環場との相互作用の季節性について
120. 池山雅美・武田喬男(名大・水圏研): 西太平洋域の雲量の30日変動と年々変動
121. 江口 卓・岩崎一孝・松本 淳・篠田雅人(東大・理)・三上岳彦(お茶の水女子大)・北島晴美(信州大)・増田耕一(東大・理): FGGE期間中における世界の降水量分布(1)—冬と夏の無降水域と多降水軸—
122. 篠田雅人・岩崎一孝・江口 卓・松本 淳(東大・理)・三上岳彦(お茶の水女子大)・北島晴美(信州大)・増田耕一(東大・理): FGGE期間中における世界の降水量分布(2)—季節変化の地域的関連—
123. 三上岳彦(お茶の水女子大)・岩崎一孝(東大・理)・北島晴美(信州大)・江口 卓・松本 淳・増田耕一・篠田雅人(東大・理): FGGE期間中

における世界の降水量分布 (Ⅲ)一日降水量分布
図に現れる雨域のパターン—

124. 増田耕一 (東大・理): 全球大気の南北熱輸送—
FGGE IIIb データの解析
125. 田宮兵衛 (気研・予報): 層厚に基づく北半球気
温について
126. 藤田敏夫 (気研・予報): ビキニ水爆実験の気候
への影響
127. 小寺邦彦 (気研・高物): 異常気象発生頻度と太
陽活動の変動に関する予備的研究
128. 中西 朗 (新潟県・村松浜小学校): 瓢湖の白鳥
最高羽数とハバロフスクの初冬寒気団 (Ⅱ)
129. 大和田道雄・加藤茶紹 (愛教大・地理): 愛知県
尾張地方における雷雨の気候学的研究
130. 東村康文 (筑波大・環境): 古日記中の天気記録
を用いた宝暦年間の気温推定
131. 水越允治 (三重大・人文): 近畿・東海地方にお
ける近世の気候復元について
132. 斉藤達也 (茨城県・小瀬高校): 樹木の年輪解析
による古気候復元へのアプローチ (Ⅰ)
133. 山本淳之 (大阪電通大)・柏谷健二 (神戸大)・福
山 薫 (京大): 琵琶湖底堆積物粒度の永年変化
と古気候変動 (3)
134. 近藤純正 (東北大・理): 火山爆発と東北の冷夏・
凶作

第2会場 局地循環

座長 藤 部 文 昭

217. 佐橋 謙 (岡山大・教育): 岡山市のヒートアイ
ランドの時間変化 (第2報)
218. 近藤裕昭 (公害資源研): 盆地冷却の数値実験(そ
の2)
219. 木村富士男 (気研)・P.C Manins (CSIRO・オー
ストラリア): Periodic な谷地形による風の Blo-
cking (Ⅰ), 非粘性流の場合
220. 白崎航一 (気研・応用): 雲生成をとまなり局地
循環のテストシミュレーション
221. 猪川元興 (気研・予報): 対流性の地形性降水の
2次元数値実験
222. 佐藤 威・近藤純正 (東北大・理): 夜間の斜面
風・山風のモデル化 (パーセルモデル)
223. 近藤純正・大草直子・佐藤 威 (東北大・理):
盆地状地形の夜間冷却量の計算 (2)
224. 近藤純正・萩野谷成徳 (東北大・理): 突風によ

る盆地内の安定層破壊

225. 安田延壽・近藤純正 (東北大・理): 森 洋介 (宮
城教育大): V字谷の重力排出流の鉛直構造
226. 田中正昭・枝川尚資 (京大・防災研): 佐久盆地
の冷えこみと局地風
227. 木村竜治・三沢信彦 (東大・海洋研) (「内陸域に
おける大気汚染の動態」本部): 「内陸域における
大気汚染の動態」特別観測の概要
228. 鶴田治雄 (横浜市・公害研) (「内陸域における大
気汚染の動態」観測班): 沿岸域から内陸域への
大気汚染物質の輸送および変質過程 (Ⅱ)—1984
年夏期調査の事例解析—
229. 谷治正孝 (横浜国大) (「内陸域における大気汚染
の動態」観測班): 千曲川上流域における局地風
230. 渡辺 明 (福島大・教育): 収東域とオキシタン
トの長距離輸送
231. 高橋忠司・植竹 稔 (埼玉大・教育) (「内陸域に
おける大気汚染の動態」観測班) 海風による汚染
物質の輸送 (1984年7月31日~8月3日におい
て)
232. 山田知充 (北大・低温研): 中国天山ウルムチ河
源頭氷河地域の夏期の降水特性
233. 前野十行 (河原塚中)・大井正一 (東理大): 後立
山の気象 (2)

第3会場 雲物理

座長 武 田 喬 男

317. 権田武彦・清 忠師・五味秀樹・斉藤 誠 (東理
大・理工): 長い髄晶角柱の成長機構について
318. 清 忠師・安保正敏・権田武彦 (東理大・理工):
低温で成長する氷晶の成長速度と成長機構
319. 黒田登志雄 (北大・低温研): 雪結晶の形態安定
性を支配する諸因子
320. 藤吉康志 (北大・低温研): 融解雪片の形の変化
321. 梶川正弘 (秋田大・教育): 雪片の構成要素の観
測
322. 村上正隆・田中豊顕・岡林俊雄・松尾敬世 (気
研)・森川公夫 (明星電気 K.K.): 雲粒子ゾンデ
(CPVS) の開発
323. 小林利章・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理): 牧
江俊雄 (北大・環境): 雨滴粒度分布の2点観測
324. 岩井邦中 (信州大・教): 種々の液滴の落下中
の形について, その3—数式による表現
325. 武田喬男・劉 国勝 (名大・圏研): マイクロウ

- レーダー放射計による雲水量の評価について
326. 武田喬男・棚橋修一 (名大・水圏研): 積乱雲の多重セル化に関する数値実験
327. 遠藤辰雄 (北大・低温研)・小西啓之 (大阪教育大): 武田喬男・赤枝健治・瀬古勝基・岩崎博之 (名大・水圏研): 九州梅雨期降雨におけるラジオゾンデとレーダーによる同時観測
328. 今泉孝男 (気象大)・石原正仁・榎原 均・柳沢善次・青柳二郎・松浦和夫 (気研): 2台のドップラーレーダーを用いたラインストームの内部構造の解析
329. 横山辰夫・石坂 隆 (名大・水圏研): 層状性降水の二波長レーダー観測—0.86 cm・3.2 cm レーダーで見た粒径分布の変化—
330. 中平 治 (北大・環境研)・菊地勝弘・遊馬芳雄 (北大・理): 石狩湾上の降雪雲のレーダーエコーからみた特徴 (Radar Echo Climatology)
331. 松尾敬世 (気研・物理): 日本付近の雲形別雲量の時間変動について
332. 和田 誠 (極地研)・岩坂泰信 (名大・水圏研): ライダーによる南極の雲の観測
333. 田中豊顕 (気研・応用)・中野 亨 (東理大・理工): 花火によるヨウ化銀の種まき法 (気象調整の技術的基礎研究 I)
334. 遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理)・藤井智史 (北大・工) 北大雲物理観測グループ: 地表付近の大気電位傾度・降水電荷の鉛直構造の測定
335. 内野 修・岡田芳隆・田端 功・穂田 巖・内藤恵吉 (気研・衛星): ライダーによる雲の特性に関する測定 (1) 偏光解消度

大会第2日 (5月23日) 09時00分～12時00分

第1会場 台風・熱帯気象

座長 住 明 正

135. 阿部成雄 (防衛大): 台風の非定常性と移動
136. 元木敏博 (気象衛星センター)・島田健司 (気象庁): GMS データに見られる台風に発達する TD の特性
137. 山岬正紀・大西晴夫 (気研・台風): 台風の非対称構造と移動について
138. 山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): 1979年夏における風の短周期変動—全球的な振幅変動の解析—
139. 中込 縁 (東大・理)・新田 勲 (気研・予報): 熱帯西部太平洋偏東風波動の起源と台風への発達
140. 丸山健人・新田 勲 (気研・予報)・元木敏博 (気象衛星センター): 衛星雲風データを用いた熱帯西部太平洋循環場の長期変動の解析 (1) 高層データとの比較
141. 新田 勲・丸山健人 (気研・予報)・元木敏博 (気象衛星センター): 衛星雲風データを用いた熱帯西部太平洋循環場の長期変動の解析 (2) 年々変動の特徴
142. 中沢哲夫 (気研・台風): 1979年における低緯度での外向長波放射 (OLR) の変動特性—特に、季節内変動と台風活動度及び短周期 (3-10日) 変動との関連を中心に—
143. 栗原弘一・宮崎保彦 (気象庁・長期予報): 日

の夏季天候と西部熱帯太平洋域海水温との関係
第2報 西部熱帯太平洋における海面水温と対流活動

144. 林 祥介 (東大・理): Air-Sea Coupled System の伝播方向について
145. 金光正郎 (FCMWF・気象庁・電計): ECMWF モデルの熱帯予報の精度—誤差の特性と原因に関する予報実験—
146. 常岡好枝・丸山健人・新田 勲 (気研・予報): 熱帯西部太平洋における衛星雲量と降水量との比較
147. Sanga-Ngoie Kazadi・山元龍三郎 (京大・理): 熱帯大規模場の統計量に関する研究

第2会場 接地境界層

座長 山 本 晋

234. 真木雅之・播磨屋敏生・菊地勝弘 (北大・理): 盆地における夜間冷却機構—冷氣移流の効果—
235. 千葉 修 (高知大・理)・小林俊一 (北大・低温研): 南極みずほ基地で観測された Kink (又は Jet) 型風速分布
236. 横山長之・水野建樹・林 正康・山本 晋・北林興二 (公資研)・鈴木基雄 (気象協会): 接地安定層中の波動の解析
237. 島貫 陸 (東学大): 2次元拡散のマルコフ連鎖シミュレーション
238. 石井哲雄 (麻布大)・近藤純正 (東北大・理): 東

支那海の海面熱収支の季節変化

239. 土屋 巖 (公害研): ランドサット TM データによるいくつかの都市の同時的熱環境の比較
240. 大滝英治 (岡山大・教養): 海面上での炭酸ガスフラックス
241. 戸矢時義 (気研・応用)・安田延壽(東北大・理): 不飽和陸地面からの蒸発量と土壤水分について (3)—土壤水分の Force Restore Treatment—
242. 林 泰一 (京大・防災研): 強風時の風速変動の空間相関について
243. 内藤玄一 (防災センター): 海洋上における強風時の乱流特性 (II)
244. 森 征洋・宮崎 勉 (香川大・教育): 風向・風速の平均値と標準偏差の評価方法について
245. 米谷俊彦 (岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について (19)
246. 加藤真規子・花房龍男 (気研・物理)・久郷直樹 (気象大): 単純化した模型上における乱流統計量の分布と拡散について (風洞実験)

第3会場 放射

座長 高 村 民 雄

336. 田中正之・中澤高濤・深堀正志 (東北大・理): 高圧下における一酸化二窒素及び一酸化炭素の吸収特性
337. 牧野行雄・村松久史 (気研)・川口貞男・山内 恭 (極地研)・田中正之 (東北大・理)・小川利紘 (東大・理): 昭和基地における N_2O 全量観測—その2
338. 山内 恭 (極地研): 地上放射観測からみた雲情報 (南極みずほ基地)
339. 鈴木一哉・芳野尙夫 (電通大)・山内 恭・川口貞男 (極地研): NOAA-7 の赤外画像データを用

いた南極域の雲の解析

340. 徳野正己 (気象衛星センター): AVHRR ニチャンネル ($11 \mu m$, $12 \mu m$) による表面温度の算出
341. 荒生公雄 (長崎大・教育): サンフォトメーターによる黄砂の観測
342. 田中正之・中島映至・小川 浩 (東北大・理): 天空光分布によるエアロゾルの光学的特性の決定
343. 嘉納宗靖・八尾 孝 (気研・高物): 窓領域の大気放射に与えるエアロゾルの影響について
344. 佐藤隆夫 (長崎大): 斜面の日照時間 (3) 測器

座長 穂 田 巖

345. 青木忠生 (気象衛星センター): Fabry-Perot 干渉フィルターを用いた鉛直大気測定器
346. 柴田 隆・小瀧政英・前田三男 (九大・工): XeF エキシマーレーザーによる高層大気密度・温度の測定
347. 佐崎 進・徳永敬三郎・松井哲司・大滝英治 (アドバンスシステム・岡山大・教養): 炭酸ガス・水蒸気変動計の試作
348. 若濱五郎・遠藤辰雄・山田知充・藤吉康志 (北大・低温研): 降雪ダイナミックス 移動観測システム
349. 赤井幸夫・小林博和・朝倉一雄・西宮 昌 (電力中研): 音波レーダーによる受信エコー強度の解析
350. 水越利之・伊東正道 (東京電力技開研)・伊藤芳樹 (海上電機)・熊本秀夫・渡辺好弘 (気象協会)・小平信彦 (リモートセンシング技術センター)・内藤恵吉・花房龍男・吉川友章 (気研): High Power 型 Doppler Sodar の開発と性能評価

大会第3日 (5月24日) 09時00分~12時30分

第1会場 力学・大規模現象

座長 林 祥 介

148. 阿部克也 (高層気象台): 原始方程式の一般解
149. 矢野順一 (京大・理): β -平面上の浅水モデルにおいて, KdV 型 Rossby-Soliton が存在しうる空間・時間スケールについて
150. 余田成男 (京大・理): 地形の影響をうけた準地衡・順圧流の分岐特性について
151. 守田 治 (九大・理): 地形性定在渦と傾圧波動

の相互作用

152. 倉内利浩・金久博忠 (気象大): 離散N層モデルにおける傾圧不安定に対する β 効果
153. 玉木克美・宇加治一雄 (福岡大・理): 回転水槽中に励起される停滞性傾圧不安定波 (2)
154. 向川 均・余田成男・廣田 勇 (京大・理): 強制ロスビー波の不安定性とその非線型効果 (2) 初期値問題
155. 高野清治・瓜生道也 (九大・理): Barotropic In-

stability と Over-Reflection

156. 高橋正明 (九大・理): OVER-REFLECTION は起きなくても不安定になる例
157. 吉澤宣之 (名大・水圏研): 波の運動量と位相速度の transience を考慮した平均流加速モデル
158. 三村和男 (京大・理): 一般化された Wave-Mean State-Interaction 問題に対する 基本的戦略 part 1
159. 塩谷雅人 (京大・理): 対流圏におけるプラネタリー波の生成と上方伝播について
160. 岩坂直人・花輪公雄・鳥羽良明 (東北大・理): 北太平洋の表面水温変動と 500 mb 高度場の変動との関係
161. 田口彰一 (東大・海洋研): 北半球500 hPa の10-30日周期帯の擾乱とロスビー波
162. 金谷年展 (東北大・理): Eddy activity の伝播と平均流加速によるブロッキングの形成機構—1982年夏にシベリアで起こったブロッキング—

第2会場 数値モデル・中小規模現象 I

座長 猪川元興

247. 重久陽亮 (気象庁・電計): 近似的な重力波ノーマル・モードを用いた時間積分法
248. 佐藤信夫 (気象庁・電計): 空間的に変動する速度場に対する時間積分の線型安定条件
249. 瀬上哲秀 (気象庁・電計): レベル2.5の closure model の微格子モデルへの適用
250. 巽保夫 (気象庁・電計): 2重フーリエ級数による局地スペクトルモデルと気象庁ルーチン・ファインメッシュモデルへの応用
251. 岩嶋樹也・山元龍三郎 (京大・理・気候変動実験施設): 時間・空間スペクトル大気大循環モデル(V)—低次順圧モデルの周期外力変化に対する応答—
252. 千葉長・木田秀次 (気研・予報)・田中康夫・河原幹雄・山田真吾 (気象庁・長期予報): 低解像度モデルによる季節変化再現実験
253. 栗原和夫・上野充・三浦信男・瀬上哲秀 (気象庁・電計): 微格子モデルによる山陰豪雨時の予報実験
254. 遠峰菊郎 (防衛大): critical level により変形された, 山を越える流れ
255. 若松桜男・阿部成雄・遠峰菊郎 (防大・地学): CAT の数値実験

256. 岡村博文 (気研・台風): スペクトル手法による地形性降水の解析(その2)
267. 後藤常男 (緯度観測所): 天文経緯度観測から推定される山越え気流
258. 近藤純正・桑形恒男 (東北大・理): 東北地方全域でみた「強風の広域特性」
259. 斎藤和雄・高野功 (気象衛星センター): 本州南岸沖の停滞性雲システムの衛星風ベクトル
260. 高野功・斎藤和雄 (気象衛星センター): 短時間間隔で撮像された GMS 画像による下層風の観測
261. 武田喬男・岩崎博之 (名大・水圏研): 日本付近の中規模スケールの雲塊の出現特性
262. 高橋永寿・樞間道夫 (気象衛星センター): 西進性雲システムの, 九州付近での事例解析
263. 文字信貴・光田寧 (京大・防災研): 複合渦の構造について(室内実験) その2

第3会場 エアロゾル

座長 岡田菊夫

351. 久芳奈遠美・岡田菊夫・武田喬男 (名大・水圏研) 名古屋で観測されたエアロゾル粒径分布に対する雲物理学的考察
352. 伊藤朋之・池上三和子・金沢五寿雄 (気研): 航空機による雲内エアロゾル観測手法について
353. 田端功・内野修・岡田芳隆・穂田巖・内藤恵吉(気研・衛星): エルチチョン火山爆発後の筑波における成層圏エアロゾル層のライダー観測
354. 岩坂泰信 (名大・水圏研): 極域成層圏エアロゾル層の偏光特性
355. 広野求和・西山清春・藤原玄夫 (九大・理): マウナロアのライダー観測値より推定した1982年春季・夏季亜熱帯上部対流圏エアロゾルの分布
356. 武田喬男・伍培明・岡田菊夫 (名大・水圏研): 大気エアロゾル光散乱係数の湿度による変化の測定(II)
357. 小野晃・石黒穰 (名大・水圏研): 都市大気中での塩化物を含むエアロゾルの挙動—X線回折による分析を用いて—
358. 三浦和彦・関川俊男 (東理大・理): 東京タワーで観測されたダスト濃度の垂直分布について
359. 岡田菊夫 (名大・水圏研): 都市大気中に浮遊する個々のサブミクロン粒子の揮発特性
360. 太田幸雄 (北大・工)・網川満則 (新菱冷熱): 札

幌におけるエアロゾルの組成(Ⅱ)

361. 太田幸雄・守屋 岳 (北大・工): 大気中の粒子状有機炭素の挙動

大気汚染 I

座長 北 林 興 二

362. 水野建樹・北林興二・近藤裕昭 (公害資源研): 都市大気中における浮遊粉じん濃度の気象解析
363. 近藤裕昭・水野建樹・北林興二・吉門 洋 (公害資源研)・久保祥子 (トータルシステム): 南関東

地方の浮遊粉じん高濃度の動態について(その1)

364. 加藤央之・藤田慎一・西宮 昌 (電力中研): 春季における地上オキシダント高濃度の発生機構—北陸地方における解析—
365. 溝口次夫・光本茂記 (公害研)・吉田 毅・梅原茂・早狩 進 (青森県)・栗田秀実 (長野県): バックグラウンドオゾンの挙動

大会第3日(5月24日) 13時30分~17時30分

第1会場 大気大循環・中層大気

座長 谷 貝 勇

163. 河原幹雄 (気象庁・長期予報): 夏の西太平洋域での亜熱帯高気圧とその年々変動(月平均場)
164. 田中正之・中村 尚 (東北大・理): エネルギー論的にみた冬期の定常的高度場アノマリー
165. 塩谷雅人・余田成男・廣田 勇 (京大・理): 対流圏・成層圏循環の季節進行について
166. 余田成男・塩谷雅人・廣田 勇 (京大・理): 複数の天候レジームと遷移—南半球対流圏大循環の長期変動—
167. 廣田 勇・余田成男・塩谷雅人 (京大・理): 赤道成層圏半年周期振動の東風加速に及ぼす南北両半球波動の影響
168. 隈 健一・佐藤信夫 (気象庁・電計)・岸保勘三郎: 全球スペクトルモデルによる1カ月予報の可能性について(序報)
169. 田宮久一郎・住 明正(気象庁・電計): Performance of long-time integration of the 12 L-SPM
170. 岩崎俊樹・住 明正 (気象庁・電計): 北半球予報モデルに対する Envelope Orography のインパクトⅡ(冬期循環の場合)
171. 時岡達志・野田 彰 (気研・予報): 1月の大気大循環に及ぼす山岳の影響(数値実験)
172. 時岡達志・山崎孝治(気研・予報): MRI-GCM-Iによる10年間のシミュレーション(序報)
173. 加藤 進 (京大・超高層)・深尾昌一郎 (京大・工)・津田敏隆・佐藤 亨 (京大・超高層): MUレーダによる中層大気風の観測
174. 山中大学 (名大・水圏研): 内部重力波のスペクトル—成層圏大気気球観測結果と考察
175. 廣田 勇・二木 徹 (京大・理): 中層大気中の

慣性重力波に関する統計的研究

176. 山崎孝治 (気研・予報): 成層圏最終昇温の南北両半球の比較
177. 山田慎一・廣田 勇 (京大・理): 赤道波と平均流の相互作用に及ぼす平均流のシアアの効果
178. 廣岡俊彦 (京大・理): 中層大気における準停滞性ロスビー波の全球構造
179. 村岡良和 (兵庫医大・物理): 冬期中間圏におけるプラネタリー波の構造

第2会場 中小規模現象

座長 村 木 彦 磨

264. 播磨屋敏生・加藤聖治・菊地勝弘 (北大・理)・飛塚一敏 (北大・環境研): 梅雨前線に伴う降雨の微細構造とその移動
265. 加藤聖治・播磨屋敏生・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理): 梅雨前線近傍で発生した鈎状エコーについて
266. 武田喬男・瀬古勝基・赤枝健治・岩崎博之 (名大・水圏研)・遠藤辰雄・小西啓之 (北大・低温研): meso β スケールの組織化された積乱雲群の観測
267. 田中 浩・湯木祥己 (名大・水圏研): 梅雨前線付近に発生する微気圧変動の特性及び降雨との相関
268. 早川誠而・元田雄二郎・坂上 務 (九大・農): レーダから見た降雨の空間分布の特徴
269. 榊原 均・柳沢善次・石原正仁(気研): 北陸地方西部における降雪系の中小規模構造(Ⅲ)(一般風に直交する走向の線状降雪系の垂直構造)
270. 柳沢善次・榊原 均・石原正仁 (気研): 北陸地方西部における降雪系の中小規模構造(Ⅳ)—ドップラーレーダーからみた収束域の構造—
271. 吉住禎夫・永田 雅 (気研・予報): 帯状雲の変

形とレーダーエコークラスターの発達

272. 八木正允 (気研・予報): 冬期の季節風の吹き出し方向に対して, おおよそ直交する方向にロール軸をもつ大規模な雪雲 (解析と理論的検討)
273. 猪川元興・武田重夫・八木正允 (気研・予報): 1984年1月27日 06 JST, 能登半島付近にみられたうず状擾乱
274. 永田 雅・吉住禎夫 (気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーションⅢ—収束帯付近の大気の微細構造と運動—
275. 白木正規 (気研・予報): 新潟県の降雪と秋田上空の強風帯
276. 上田 博 (防災センター)・Dusan S. Zrnich' (NS-SL): 1台のドップラーレーダーによるガストフロントの自動検出方法
277. 武田重夫・八木正允 (気研・予報): レーダー, アメダス等を用いた短時間降雪予測について
278. 高瀬邦夫・饒村 曜・竹村行雄 (気象庁・予報): レーダーとアメダスによる降水量分布の解析 (レーダー・アメダス雨量合成図の紹介)
279. 土井重行・鈴木直美・根岸雅巳 (名古屋電気通信工学院): 即応形降雨計ネットワークによる降雨強度の観測
280. 元木敏博・小佐野慎悟 (気象衛星センター): GSM データとエコー強度データから降水強度を推定する試み

第3会場 大気汚染Ⅱ

座長 北 林 興 二

366. 岩崎一孝 (東大・理)・宅田川 満・伊藤政志・朝来野国彦 (東京都・公害研): 南関東の夏季における海陸風系の解析手法
367. 市川陽一・四方 浩・西宮 昌 (電力中研): 地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル(7)—複雑地形を対象としたガウス型流跡モデル—
368. 横山長之・林 正康・北林興二 (公害資源研)・鈴木基雄 (気象協会): 大気拡散ポテンシャルの全国的分布について

369. 増原孝明 (気象協会): 東京都内における CO 濃度と拡散パラメーターの関連—特に広域高濃度時における熱拡散係数との関連—
370. 筑紫文夫 (気象協会)・小森 悟・植田洋匡 (公害研): 大気境界層流中での化学反応に及ぼす乱流の効果

応用気象

座長 蔵 重 清

371. 田平 誠 (愛知教育大): ロケットの打ち上げに伴う衝撃波とその長距離伝播
372. 土屋 清 (千葉大・工)・館 和夫 (宇宙開発事業団): ランドサット TM 画像による雲および積雪融雪域の識別
373. 水野 量 (仙台管区): 台風 8218 号による東北地方の山がけ崩れと降水特性との対応性
374. 樋口和雄 (小諸高校): 昭和 57 年台風 10 号による浅間山南麓の風倒木の被害状況について
375. 元田欽也 (技術士・応用理学): 霞ヶ浦の水質に及ぼす気象要因の影響
376. 榊原保志 (目黒二中): 室温の数値実験実際(Ⅱ)—実際のマンションの熱容量の推測—
377. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工)・志賀正信: 三陸大震前の日月光環と波状雲
378. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工)・志賀正信: 高層気流と地磁気分力
379. 蔵重 清 (気象庁)・荒生公雄 (長崎大): 長崎, 出島オランダ商館における気象観測と気候値
380. 前野十行 (河原塚中): 中学生による天気予報について
381. 佐橋 謙 (岡山大・教育): 小学校の気象教材についての一案

同一の発表者が1つのセッションで2件発表を行う場合がありますが, これはあくまでもプログラム編成の都合によるものです。今後とも同一発表者による1つの希望部門(中項目)への講演申し込みは1件に制限しますので, 御協力お願い致します。